

レッサーパンダの人工哺育に関する調査報告

○池田 綾香, 太田 真琴, 伊藤 咲良,
五十嵐 多鶴子, 薄井 正, 坂上 舞, 渡邊 恵

【はじめに】 国内のレッサーパンダ (*Ailurus fulgens*) の飼育頭数は 270 頭前後を維持しているが, 近年の新生仔成育率は 60%程度で推移している. さらに人工哺育による成育率は 52%に留まっているため, 初期死亡率を減少させることが飼育下個体群の維持につながると考える. そこで, 本種における国内の人工哺育の現状と課題を抽出し, 飼育技術の向上と個体群の安定に役立てるために, 国内における人工哺育に関する実態調査を実施した.

【材料と方法】 調査期間は, 初事例が報告された 1998 年から 2022 年 3 月までの 24 年間とした. 人工哺育への切り替え理由, 哺育方法や哺育環境, 対象個体の成長経過など全 22 項目を質問するアンケート調査用紙を, 国内で本種を飼育する動物園水族館 60 園館 (JAZA 加盟 56、非加盟 4 : 2022 年 1 月現在) へ送付した.

【結果と考察】 人工哺育経験がある園館数は 21 で例数は 65 であった. 新生仔の成育率は, 近年に向け生育率の向上がみられるということはなく, 期間を通して 50%前後を推移し, とくに大きな変動は認められなかった. 新生仔が 20 日齢以前に人工哺育を開始した事例での成育率が低く, この時期の飼育管理法が課題であることが分かった. 死因は, 肺炎が 15 例と一番多く, うち 4 例が誤嚥によるものであった. それ以外の死因の間には有意な差が見られなかった. 感染性と思われる肺炎や腸炎などの事例も認められたため, 飼育環境や哺乳器具の衛生管理の改善が示唆された. また, 成育状況や使用した人工乳の種類に関わらず 62% (40 頭) の事例で下痢や便秘などの便通異常が認められているため, この要因についても可能な限り精査する必要があると示唆された. 今回の調査では, 人工乳の種類や調乳, 哺乳方法など, 様々な事例を収集することができた. 今後は人工哺育における成育要因をさらに詳細分析してそれらの最新情報を共有し, 飼育技術を発展させ継承していくことが重要である.